

報 告

生殖・内分泌委員会報告

思春期をめぐる諸問題検討小委員会

(わが国における思春期妊娠第4回調査報告)

委員長 廣 井 正 彦

平成5年度思春期妊娠問題小委員会

小委員長 矢内原 巧

平成7年度思春期妊娠問題小委員会

小委員長 玉舎 輝彦

委員 目崎 登, 片桐 清一, 河合 清文

日本産科婦人科学会小児・思春期問題委員会は十代の妊娠、分娩の増加に鑑み思春期における性行動の実態、性意識を把握するため、20歳未満で妊娠した女子の社会医学的検討を行ってきた。同調査は昭和53年6月を第1回として5年ごと過去3回行われ今回は第4回の調査にあたり、妊娠に至る社会的背景や産科学的問題点について検討した。

調査対象ならびに調査方法

調査対象：過去の調査が20歳未満すなわち19歳までに妊娠状態を終了したものを対象としたので、これらとの比較のために過去3回と同様な調査対象を用いた。

調査方法：日本母性保護産婦人科医会の全面的な協力のもと各都道府県の日母支部長からそれぞれ5～10施設を推薦いただき図1のような調査票を配付した。この調査票は調査結果の比較のため第3回調査と同様のものを用いた。これと同時に分娩調査票も配付し分娩例については記載していただき、十代分娩の実態について検討した。調査期間は平成7年6月1日から平成8年5月31日までの1年間である。集計された調査項目はコンピューター処理され検討した。

調査成績

集計された妊娠の調査票は1,634枚であったが記載不備等により実際に集計処理されたのは1,615例であった。うち既婚者は655例(40.6%)であり、前回調査の24.0%を大きく上回っていた(表1)。

1. 年齢分布

本調査の対象となった十代妊娠の年齢分布は表2のようであり、この年齢分布は過去の調査と同様の傾向

を示した。17歳から19歳で全体の約90%を占める。一方16歳以下は9.2%と第3回調査(11.2%)より減少しているものの第1回調査(9.7%)、第2回調査(9.6%)と同様の傾向を示した。

2. 身体発育

身長分布は過去3回の調査と同様であり、155～159cmが35.8%と最も多く、次いで150～154cm(26.7%)、160～164cm(25.9%)の順であり、第1回および第2回の調査と同様の傾向を示したが、第3回調査とは2位と3位の順序が入れ替わっている。

体重は50～54kgが26.4%、45～49kgが26.4%と第3回調査と同様の傾向を示した。

3. 初経年齢分布と月経周期

初経年齢は9歳から17歳まで分布し、12歳代が41.1%、11歳代が20.4%、13歳代が19.2%、14歳代が10.2%と過去の報告と同様の傾向を示した。月経周期の正順なるものは80.0%であり、やはり過去の報告と大差なかった。

4. 教育背景と本人の職業

年齢別の教育程度を表3に示したが、過去の調査同様多少の記載間違いと思われるものが含まれているが、内容は過去の調査と同様であった。本人の職業を表4に示したが無職の占める割合が過去の調査(第2回30.3%、第3回35.7%)に比較し今回45.4%と増加しているが、これは今回の調査では婚姻しているものの割合が増加していることに起因すると思われる。

5. 居住地区

都市部が71.7%と過去の調査同様絶対的に多く、また人口20万人以上の都市が38.0%を占めこれも過去同

図1 思春期妊娠調査票

A あなた自身のことについてお聞きします。

あなたの年齢、身長、体重を記入してください。年齢 歳、身長 cm、体重 kg

該当する答の番号を右の□の中に記入してください。

問1. 学歴：1.小学生、2.中学生、3.中学生卒、4.高校卒、5.高校卒、6.大学(短大)生

問2. 居住地区：1.都市部(市)、2.郡部(町・村)

問3. 居住地区(市・町・村)の人口は：1. 20万人以上、2. 5~20万人未満、3. 5万人未満

問4. 職業：1.無職、2.生徒・学生、3.事務員(会社員)、4.農業、5.工具、6.店員、7.その他()

問5. 同居家族：1.同居している、2.同居していない 父 母 祖父 祖母

同居している兄弟姉妹は何人ですか。あなた自身はのぞいてください。 人
いなければ「0」(ゼロ)と記入してください。

問6. 親との続柄：1.長女、2.次女、3.三女、4.四女、5.五女、6.六女、7.七女、8.養女、9.その他()

B 相手の人についてお聞きします。

相手の人の年齢、身長、体重を記入してください。わからなければ記入しないでください。

年齢 歳、身長 cm、体重 kg

該当する答の番号を右の□の中に記入してください。

問1. 学歴：1.中学生、2.中学生卒、3.高校卒、4.高校卒、5.大学(短大)生、6.大学(短大)卒、7.不明

問2. 居住地区：1.都市部(市)、2.郡部(町・村)、3.不明

問3. 居住地区(市・町・村)の人口は：1. 20万人以上、2. 5万~20万人未満、3. 5万人未満、4. 不明

問4. 職業：1.無職、2.生徒・学生、3.事務員(会社員)、4.農業、5.工具、6.店員、7.教師、8.家庭教師、9.その他()、0.不明

問5. 相手の人との関係：1.夫、2.婚約者、3.知人、4.友人、5.職場の人、6.師弟、7.親族(父・兄・弟・義父・義兄弟・おじなど)、8.姪孫、9.その他()、0.不明

問6. 相手の人との交際を親が認めていますか：1.認めている、2.認めていない

問7. (結婚している人だけ) 結婚した年月日は 昭和 年 月 日 (入籍・同居)

C 月経についてお聞きします。

該当する答の番号又は、数字を右の□の中に記入してください。

問1. 初めての月経は何歳・何カ月の時ですか。 歳 カ月

問2. ふだん月経は定期的になりましたか。：1.はい、2.いいえ

問3. ふだんの月経の周期は何日ですか。：1. ~24日、2. 25~27日、3. 28~30日、4. 31~33日、5. 34~36日、6. 37~39日、7. 40日~

問4. ふだんの月経の出血期間は何日間ですか。：1. 1日、2. 2日、3. 3日、4. 4日、5. 5日、6. 6日、7. 7日、8. 8日以上

問5. 最後の月経はいつから始まって、何日間でしたか。 昭和 年 月 日 ~ 日

D 性交についてお聞きします。

該当する答の番号又は、数字を右の□の中に記入してください。

問1. 初めての性交は、何歳の時でしたか。 歳

問2. 初めての性交した場所はどこでしたか。：1.自宅、2.相手の家、3.アパート、4.ホテル、5.野外、6.車の中、7.その他()

問3. (1)初めての性交した季節はいつでしたか。(2)又はそれは何月でしたか。：
1.春、2.夏、3.秋、4.冬 (1)季節 (2) 月

問4. 交際から初めて性交した時までの期間はどのくらいですか。：1. 1週間以内、2. 1カ月以内、3. 2~3カ月、4. 4~6カ月、5. 7~12カ月、6. 1年以上

問5. 妊娠するまでに、初めての性交から数えて、性交回数は何回でしたか。：1. 1回、2. 2~5回、3. 6~9回、4. 10回以上

問6. 同棲したことがありますか。：1.はい、2.いいえ

問7. 性感(オルガスム)はありましたか。：1.はい、2.いいえ、3.わからない

問8. 初めての性交のとき性交に対する態度はどうでしたか。：1.自分で希望した、2.好奇心から、3.無理やりに、4.何とはなしに、5.お酒を飲んでた、6.わからない

問9. 婚前性交についてどう思いますか。：1.愛していなくても2人の同意があればよい、2.愛していればよい、3.結婚が前提ならかわらない、4.どんな場合でもよくない、5.わからない

問10. 今まで何人の男性との間に性交経験がありますか。：1. 現在の人だけ、2. 2~5人、3. 6~9人、4. 10人以上

E 避妊についてお聞きします。

該当する答の番号を右の□の中に記入してください。

問1. 今まで避妊(妊娠しないような工夫)をしたことがありますか。：1.いつもしていた、2.時々していた、3.したことがない

問2. "避妊をした。" 避妊をしたことがある。と答えた人に、避妊の方法は：
1.コンドーム、2.中絶性交、3.オギノ式、4.ピル、5.その他()

問3. 初経に関する教育以外に、性教育をうけましたか。：1.うけた、2.うけない

問4. "性教育をうけた。"と答えた人に、どこで性教育をうけましたか。：
1.家庭、2.学校、3.その他()

問5. "性教育をうけない。"と答えた人に、性教育をうけたかったですか。
1.うけたかった、2.どうでもよい、3.必要ない

F 今回の妊娠についてお聞きします。

該当する答の番号又は数字を右の□の中に記入してください。

問1. 月経が遅れたときの気持はどうでしたか。：
1.妊娠したと思った、2.そのうちあると思っていた、3.気にしなかった

問2. 妊娠だといわれた時どうでしたか。：
1.ショックだった、2.何とも思わなかった、3.うれしかった

問3. 親(父・母)は妊娠を知っていますか。：

1.自分から知らせた、2.知らせていないが知っている、3.知らない

Code No

問4. 赤ちゃんに対する気持はどうですか。：

1.何とも思わなかった、2.かわいそう、3.悪いことをした、4.憎い、5.かわい

問5. 妊娠について最初に相談した人はだれですか。：1.だれにも相談していない、2.相手の人、3.友達、4.姉妹、5.男兄弟、6.学校の先生、7.医師、8.父親、9.母親、0.その他()

問6. 前にも妊娠したことがありますか。1.ある、2.ない

問7. (前にも妊娠したことがある人だけ) 今まで(今回の妊娠をのぞいて)何回妊娠したことがありますか。 回

H 医師・助産婦・看護婦記入欄

該当する項目の番号又は、数字を□の中に記入してください。

問1. 初診時妊娠週(月数)：妊娠 週 (カ月)

問2. 妊娠中毒症の症状：1.なし、あり、2.浮腫、3.蛋白尿、4.高血圧

問3. 種々の感染：1.なし、あり、2.梅毒、3.淋病、4.トリコモナス、5.その他

問4. 妊娠の結末：
(1)自然産産：1.なし、2.あり 妊娠 週 (カ月)
(2)人工妊娠中絶：1.なし、2.あり 妊娠 週 (カ月)
(3)経産分娩： 週 昭和 年 月 日生
(4)帝王切開： 週 昭和 年 月 日生

分娩したものについては10代分娩調査票に御記入下さい。

表1 婚姻の有無

	例数	(%)
既婚	655	40.6%
未婚	838	51.9%
不明	122	7.6%
計	1,615	100.0%

様であった。

6. 家庭環境

両親又は祖父母との同居に関する質問に対して全体の82.4%(1,331例)が同居の有無を回答してくれた。このうち同居していないものは28.5%(379例)であり、父母又は祖父母と同居しているものが71.5%(952例)であった。これら同居しているもの952例の内訳は父母とのみ同居しているものが50.9%(485例)、母のみが14.3%(136例)、父のみが3.3%(31例)、父母祖父母が14.0%(133例)、父母祖母が8.6%(82例)であった。傾向的には前回の調査同様である。しかし、本設問のなかに婚姻の有無が含まれていないこと、および今回の調査では婚姻例が増加している点から、同居していないと答えたものなかに婚姻により夫婦のみで生活している例がかなり含まれるのではと考え婚姻と同居との関係をクロス集計してみた。その結果同居者なしと答えた379例のうち254例(67.0%)は既婚者であり、未婚の独り暮らしは約1/3に過ぎないことがわかった。

同居している兄弟姉妹は1名が26.3%、2名が15.8%であり、58.8%が長女、28.0%が次女であり前

表2 年齢分布

年齢	13	14	15	16	17	18	19	計
例数	2	8	27	112	242	452	772	1,615
(%)	0.1%	0.5%	1.7%	6.9%	15.0%	28.0%	47.8%	100.0%

表3 教育程度

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
小学生	0	1	0	0	0	1	1	3	0.2%
中学生	2	7	9	2	3	5	4	32	2.0%
中学卒	0	0	13	54	112	186	164	529	33.4%
高校生	0	0	5	51	114	63	54	287	18.1%
高校卒	0	0	0	1	4	153	398	556	35.1%
大学(短大)生	0	0	0	0	1	30	74	105	6.6%
回答なし	0	0	0	4	8	14	47	73	4.6%
計	2	8	27	112	242	452	742	1,585	100.0%

表4 本人の職業

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
無職	0	0	0	44	104	217	369	734	45.4%
生徒, 学生	2	8	8	53	103	84	100	358	22.2%
事務員(会社員)	0	0	3	1	2	47	114	167	10.3%
農業	0	0	0	0	0	2	1	3	0.2%
工員	0	0	0	2	3	2	8	15	0.9%
店員	0	0	0	5	16	44	63	128	7.9%
その他	0	0	2	2	6	42	76	128	7.9%
回答なし	0	0	14	5	8	14	41	82	5.1%
計	2	8	27	112	242	452	772	1,615	100.0%

表5 相手の教育程度

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
中学生	0	2	3	1	1	1	1	9	0.6%
中学卒	1	2	12	51	108	167	238	579	35.9%
高校生	1	2	5	31	49	44	33	165	10.2%
高校卒	0	0	6	18	55	187	350	616	38.1%
大学(短大)生	0	1	1	0	7	22	51	82	5.1%
大学(短大)卒	0	0	0	3	3	12	41	59	3.7%
不明	0	1	0	4	5	2	5	17	1.1%
小計	2	8	27	108	228	435	719	1,527	94.6%
回答なし	0	0	0	4	14	17	53	88	5.4%
計	2	8	27	112	242	452	772	1,615	100.0%

回と同様の傾向を示した。

7. 相手の教育程度および相手との関係

相手の教育程度は中学卒が35.9%, 高校卒が38.1%, 中学生が0.6%, 高校生が10.2%と過去同様の傾向を示し在校生は少なかった(表5)。相手との関係を表6に示したが、夫が36.2%と最も多く、次いで友人(21.4%), 婚約者(16.8%)であった。過去の調査と異なり1位と2位が逆転しているがこれは今回既婚者の占める割合が多いためと考えられる。

8. 初交年齢および場所

初めて性交を経験した年齢を表7に示した。過去の調査と同様16歳が最も多く、次いで15歳, 17歳の順であった。過去調査の度に初交年齢が早まる傾向が認められたが、今回の調査でもその傾向は続き16歳までに63.7%, 17歳までに81.0%が性交を経験しており、この割合は前回より増加している。

初交の場所は前回の調査と同様であり相手の家が最も多く、次いでホテル, 自宅の順であった。

表6 相手との関係

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
夫	0	0	2	13	66	149	354	584	36.2%
婚約者	0	0	6	19	47	94	105	271	16.8%
知人	0	1	4	11	17	29	38	100	6.2%
友人	1	5	10	43	62	98	127	346	21.4%
職場の人	0	0	0	1	1	6	22	30	1.9%
師弟	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
親族	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
強姦	0	0	0	0	0	1	0	1	0.1%
その他	1	0	4	10	24	48	62	149	9.2%
不明	0	1	1	2	2	2	6	14	0.9%
小計	2	7	27	99	219	427	714	1,495	92.6%
回答なし	0	1	0	13	23	25	58	120	7.4%
計	2	8	27	112	242	452	772	1,615	100.0%

表7 初交年齢

初交年齢\年齢	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
10	0	0	0	0	0	1	0	1	0.1%
11	0	0	0	1	1	0	0	2	0.1%
12	2	0	2	2	4	3	2	15	0.9%
13	0	5	9	7	11	14	20	66	4.1%
14	0	2	9	24	36	51	59	181	11.2%
15	0	0	7	45	66	104	125	347	21.5%
16	0	0	0	20	80	129	188	417	25.8%
17	0	0	0	0	32	95	153	280	17.3%
18	0	0	0	0	0	33	132	165	10.2%
19	0	0	0	0	0	0	35	35	2.2%
小計	2	7	27	99	230	430	714	1,509	93.4%
回答なし	0	1	0	13	12	22	58	106	6.6%
計	2	8	27	112	242	452	772	1,615	100.0%

表 8 初交の場所

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
自宅	0	2	6	19	29	54	77	187	11.6%
相手の家	2	4	12	57	142	262	389	868	53.7%
アパート	0	0	1	6	6	8	33	54	3.3%
ホテル	0	1	3	15	36	90	184	329	20.4%
野外	0	1	1	0	1	4	9	16	1.0%
車の中	0	0	0	4	5	3	10	22	1.4%
その他	0	0	0	1	0	0	0	1	0.1%
小計	2	8	23	102	219	421	702	1,477	91.5%
回答なし	0	0	4	10	23	31	70	138	8.5%
計	2	8	27	112	242	452	772	1,615	100.0%

表 9 初交の季節

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
春	0	1	8	27	48	93	150	327	20.2%
夏	0	3	12	39	74	161	243	532	32.9%
秋	1	2	4	11	32	70	122	242	15.0%
冬	1	2	3	27	68	102	187	390	24.1%
小計	2	8	27	104	222	426	702	1,491	92.3%
不明	0	0	0	8	20	26	70	124	7.7%
計	2	8	27	112	242	452	772	1,615	100.0%

9. 初交の季節

初交の時期を季節別にみると、夏、冬、春、秋の順であり、前回同様であった。月別に検討してみると8月(17.5%)、7月(11.2%)、12月(9.8%)、5月(8.7%)、10月(8.4%)、3月(7.5%)と順序は過去の調査と若干異なるものの、やはり過去の調査同様、夏休み、冬休み、春休みなど休暇の多い時期と一致していた(表9)。

10. 交際してから初交に至るまでの期間

交際を始めてから初交に至るまでの期間を表10に示した。交際開始後2～3カ月以内が最も多く26.3%、1カ月以内がそれに次ぎ25.7%であり、3カ月以内に67.4%がまた6カ月以内に80.5%が性交に至っている。前回の調査でも交際を始めてから性交に至るまでの期間は短縮化される傾向があったが、今回さらに数%ではあるが、短縮化されている。

11. 妊娠に至るまでの性交回数

交際開始から妊娠に至るまでの性交回数は表11のようである。最も多かったものは10回以上であり、増加傾向を示した前回(66.4%)よりさらに増加し73.5%を

示した。5回以内の性交で妊娠したものは第2回調査(21.3%)→第3回調査(16.1%)→今回(9.1%)と調査ごとに減少する傾向が認められた。10回以内の妊娠も同様であり第2回調査(32.9%)→第3回調査(26.8%)→今回(16.7%)と減少を示した。また、1回のみで妊娠したのも第2回調査(3.9%)→第3回調査(2.1%)→今回(1.2%)と同様減少を示した。

12. 同棲の有無

同棲の有無を表12に示したが、同棲経験のあるものは32.5%であり、60%は同棲の経験がなくこの点は過去と同様の傾向を示した。

13. 性感の有無

性交に際し快感を感じたものは32.0%であり、第1回調査(47.4%)に比し少ないものの、第2回調査(29.8%)、第3回調査(25.2%)と同様の傾向を示した(表13)。

14. 性交を行った動機および婚前交渉に対する意識
性交を行った動機、および婚前交渉に対する意識をそれぞれ表14および表15に示した。性交を行った動機

表10 交際してから初交に至るまでの期間

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
1週間以内	1	1	8	21	40	68	110	249	15.4%
1カ月以内	0	3	7	26	69	110	200	415	25.7%
2～3カ月	0	2	3	26	72	128	193	424	26.3%
4～6カ月	0	0	6	15	18	66	107	212	13.1%
7～12カ月	0	2	0	9	11	22	50	94	5.8%
1年以上	0	0	2	9	16	34	44	105	6.5%
小計	1	8	26	106	226	428	704	1,499	92.8%
回答なし	1	0	1	6	16	24	68	116	7.2%
計	2	8	27	112	242	452	772	1,615	100.0%

表11 妊娠に至るまでの性交回数

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
1回	0	2	3	4	4	3	3	19	1.2%
2～5回	1	1	4	21	21	39	41	128	7.9%
6～9回	0	1	4	7	19	34	57	122	7.6%
10回以上	0	3	15	74	176	333	586	1,187	73.5%
小計	1	7	26	106	220	409	687	1,456	90.2%
回答なし	1	1	1	6	22	43	85	159	9.8%
計	2	8	27	112	242	452	772	1,615	100.0%

表12 同棲の有無

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
あり	0	1	6	29	66	153	270	525	32.5%
なし	1	7	20	74	154	276	445	977	60.5%
小計	1	8	26	103	220	429	715	1,502	93.0%
回答なし	1	0	1	9	22	23	57	113	7.0%
計	2	8	27	112	242	452	772	1,615	100.0%

表13 性感の有無

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
あり	0	2	8	30	80	156	240	516	32.0%
なし	1	0	6	8	21	46	75	157	9.7%
わからない	0	6	13	64	124	220	391	818	50.7%
小計	1	8	27	102	225	422	706	1,491	92.3%
回答なし	1	0	0	10	17	30	66	124	7.7%
計	2	8	27	112	242	452	772	1,615	100.0%

表14 性交を行った動機

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
自分で希望	0	0	2	4	19	43	74	142	8.8%
好奇心から	1	1	9	20	49	75	154	309	19.1%
無理矢理に	0	0	0	7	10	19	25	61	3.8%
何とはなしに	1	4	9	44	105	192	309	664	41.1%
お酒を飲んでいた	0	0	0	3	6	20	18	47	2.9%
わからない	0	2	7	28	38	79	128	282	17.5%
小計	2	7	27	106	227	428	708	1,505	93.2%
回答なし	0	1	0	6	15	24	64	110	6.8%
計	2	8	27	112	242	452	772	1,615	100.0%

表15 婚前交渉に対する意識

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
愛していなくても同意があればよい	0	1	2	6	28	42	118	197	12.2%
愛していればよい	2	4	20	66	159	307	479	1,037	64.2%
結婚が前提ならよい	0	0	2	5	8	28	45	88	5.4%
どんな場合でもよくない	0	0	1	1	2	2	1	7	0.4%
解らない	0	3	2	28	29	51	74	187	11.6%
小計	2	8	27	106	226	430	717	1,516	93.9%
回答なし	0	0	0	6	16	22	55	99	6.1%
計	2	8	27	112	242	452	772	1,615	100.0%

に関しては、「何とはなしに」、「わからない」、「求められるままに」性交に至っているものが全体の62.4%であり、過去と同様の傾向を示した。また好奇心から性交に至るものがいずれの調査でも17~18%とほぼ一定の割合で存在することは興味深い。婚前交渉に対する意識は全体的な傾向としては前回同様であるが、前回増加傾向を示した「愛していればよい」は今回さらに増加した(前回62.2%今回64.2%)。また前回半減した「結婚が前提ならよい」はさらに減少した(前回8.4%今回5.4%)。同様「どんな場合でもよくない」は過去の調査では2%前後を示していたが、今回0.4%と激減した。一方いずれの調査においても「愛していなくても同意があればよい」が10%前後を占めている。

15. 性交経験について

表16に性交経験の年齢別分布を示した。

「現在の人とのみ」というのは28.2%と前回に比し著しく減少している(前回41.4%)。

一方、「2~5人」42.3%と前回と差がないのに対し「6~9人」は7.3%→11.4%、「10人以上」が5.6%→10.5%と増加傾向を示している。このことは、前回報告でも指摘されたことであるが、欧米同様十代の性の特徴とされている相手が複数という現象が我が国でも一般的になりつつあると思われる。

16. 避妊について

避妊の状況について検討したのが表17である。少なくとも1回は避妊を行っていたものは、83.3%を占め第1回調査63%、第2回調査77.9%、第3回調査81%と次第に増加の傾向を示している。未婚のものにとっては妊娠は望まれないことが多いが、今回の調査では既婚者の占める割合が以前の調査より増加しており、これらの者にとっては妊娠が必ずしも望まれないもののみではなくむしろ歓迎すべきものも多い。したがって両者をまとめて集計することは好ましくない。そこで、既婚、未婚に分けて検討した。既婚者が少なくと

表16 性交経験

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
現在の人のみ	1	5	14	43	84	131	178	456	28.2%
2～5人	1	1	7	46	86	191	351	683	42.3%
6～9人	0	0	2	8	27	45	102	184	11.4%
10人以上	0	1	4	11	33	51	69	169	10.5%
小計	2	7	27	108	230	418	700	1,492	92.4%
回答なし	0	1	0	4	12	34	72	123	7.6%
計	2	8	27	112	242	452	772	1,615	100.0%

表17 避妊について

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
いつもしていた	0	1	2	15	37	72	109	236	14.6%
時々していた	1	3	20	79	162	306	539	1,110	68.7%
したことがない	1	4	5	15	31	61	81	198	12.3%
小計	2	8	27	109	230	439	729	1,544	95.6%
回答なし	0	0	0	3	12	13	43	71	4.4%
計	2	8	27	112	242	452	772	1,615	100.0%

表18 避妊の方法

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
コンドーム	1	4	20	85	189	361	610	1,270	78.6%
中絶性交	0	0	2	5	7	9	19	42	2.6%
オギノ式	0	0	0	0	0	3	4	7	0.4%
ピル	0	0	0	0	0	1	2	3	0.2%
その他	0	0	0	2	3	1	8	14	0.9%
小計	1	4	22	92	199	375	643	1,336	82.7%
回答なし	1	4	5	20	43	77	129	279	17.3%
計	2	8	27	112	242	452	772	1,615	100.0%

も1回避妊した率は82.3%であるのに対し未婚者では87.1%と高値を示した。しかし、いつも避妊を行っているものは前回調査同様16.2%のみであった。望まれない妊娠を防ぐためには避妊は毎回行わなければならないわけであり、この点性教育の必要性が痛感される。

17. 避妊の方法

避妊の方法を調査したのが表18である。コンドームの使用が最も多く78.6%であり、過去の調査と同様の傾向を示した。

18. 性教育の有無

性教育を受けた経験があるかとの問いに対し、何ら

かの性教育を「受けた」ものが67.6%、「受けたことがない」ものが29.7%であった。性教育を「受けた」ものは、第1回調査54.9%、第2回調査59.1%、第3回調査61.0%、今回調査67.6%と調査ごとに増加しており、性教育が徐々に浸透してきていることを示している(表19)。

19. 性教育を受けた場所

学校で受けたものが圧倒的に多く92.5%を占めた。家庭で受けたものは7.2%に過ぎず過去の調査と同様の傾向を示した(表20)。

20. 性教育に対する関心

表19 性教育を受けたか

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
受けた	1	4	17	81	172	314	503	1,092	67.6%
受けない	1	4	10	29	70	129	237	480	29.7%
小計	2	8	27	110	242	443	740	1,572	97.3%
回答なし	0	0	0	2	0	9	32	43	2.7%
計	2	8	27	112	242	452	772	1,615	100.0%

表20 性教育を受けた場所

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
家庭	1	0	0	7	14	26	31	79	7.2%
学校	0	4	17	74	158	287	470	1,010	92.5%
その他	0	0	0	0	0	1	2	3	0.3%
小計	1	4	17	81	172	314	503	1,092	100.0%
回答なし	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
計	1	4	17	81	172	314	503	1,092	100.0%

表21 性教育に対する関心

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
受けたかった	0	3	6	15	35	40	91	190	39.6%
どうでもよい	1	0	0	11	27	67	116	222	46.3%
必要ない	0	0	1	2	8	22	28	61	12.7%
小計	1	3	7	28	70	129	235	473	98.5%
回答なし	0	1	3	1	0	0	2	7	1.5%
計	1	4	10	29	70	129	237	480	100.0%

性教育を受けなかった480名に対して、性教育に対する関心を調査したものが表21である。全体的にみると「受けたかった」が39.6%、「どうでもよい」46.3%、「必要ない」12.7%と前回とほぼ同様の傾向を示した。すなわち約半数の46.3%が「どうでもよい」と考えており、前回と同様の傾向を示した。また「受けたかった」と答えたものは39.6%と前回(32.8%)に比し増加しているものの第1回(53.8%)、第2回(46.9%)と比較し減少している。しかし、既婚者と未婚者では当然関心が異なるはずであり、この点から既婚者と未婚者に分け検討した。既婚者では「受けたかった」が24.9%、「どうでもよい」が60.9%、未婚者では「受けたかった」が44.5%、「どうでもよい」が36.1%と未婚者に関しては第2回同様の傾向を示した。すなわち当然のことながら未婚者の方が望まれない妊娠を避けたいという点か

ら性教育に対する関心が高いといえる。

21. 月経が停止した時の気持ち

「妊娠したと思った」が56.3%、「そのうちあると思った」33.5%、「気にしなかった」5.7%と過去同様の傾向を示し、約40%の人は妊娠するとは思っていなかったようである(表22)。

22. 妊娠といわれた時の気持ち

表23に妊娠といわれた時の気持ちを示した。「ショックだった」が前回の51.9%から35.3%へ激減し、逆に「うれしかった」が前回の36.2%から49.1%へと増加しているが、これは今回の調査で既婚者の占める割合が増加しているためと思われる。そこで既婚、未婚に分けて検討してみると当然のことながら既婚者では「ショックだった」というものは11.3%に過ぎず、逆に「うれしかった」が74.5%を占める。未婚者では反対の

表22 月経が停止した時の気持ち

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
妊娠したと思った	0	1	10	56	122	271	450	910	56.3%
そのうちあると思った	2	5	17	40	89	137	251	541	33.5%
気にしなかった	0	2	0	13	19	30	28	92	5.7%
小計	2	8	27	109	230	438	729	1,543	95.5%
回答なし	0	0	0	3	12	14	43	72	4.5%
計	2	8	27	112	242	452	772	1,615	100.0%

表23 妊娠といわれた時の気持ち

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
ショックだった	2	5	14	50	96	148	255	570	35.3%
何とも思わなかった	0	1	2	14	30	46	67	160	9.9%
うれしかった	0	2	9	43	100	236	403	793	49.1%
小計	2	8	25	107	226	430	725	1,523	94.3%
回答なし	0	0	2	5	16	22	47	92	5.7%
計	2	8	27	112	242	452	772	1,615	100.0%

表24 両親は妊娠のことを知っているか

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
自分が知らせた	1	2	16	72	149	302	496	1,038	64.3%
知らせていないが知っている	1	3	6	12	22	22	31	97	6.0%
知らない	0	3	5	20	52	102	182	364	22.5%
小計	2	8	27	104	223	426	709	1,499	92.8%
回答なし	0	0	0	8	19	26	63	116	7.2%
計	2	8	27	112	242	452	772	1,615	100.0%

傾向を示し、「ショックだった」が54.5%、「うれしかった」が32.2%であり、未婚者は前回調査と同様の傾向を示した。

23. 両親は妊娠のことを知っているか

娘の妊娠を両親が知っているかとの設問に対し、「自分から知らせた」が64.3%と前回よりさらに増加した。一方「知らない」は前回よりさらに減少し22.5%であった。婚姻の有無によって当然結果は異なることより、既婚、未婚に分け検討した。「自分から知らせた」ものは既婚者では93.8%であるが、未婚者では54.5%、「知らない」は既婚者では2.0%に過ぎないが、未婚者では39.0%であった。

24. 胎児に対する気持ち

胎児に対する気持ちを表25に示したが、前回まで減少を続けた「かわいそう」はさらに減少し(前回23.4%→今回12.9%)、逆に前回まで増加を続けた「かわいい」はさらに増加した(前回32.7%→今回45.8%)。これも当然婚姻の状態によって分布が異なると考えられるため、やはり既婚、未婚に分け検討した。既婚者では「かわいそう」、「悪いことをした」、「憎い」等の否定的な気持ちは合わせてわずか6.9%であり「かわいい」が80.1%を占める。これに対して未婚者では否定的な気持ちは85.4%を占め、逆にうれしいは27.8%に止まった。

25. 妊娠について最初に相談した相手

「妊娠している」といわれた時に最初に相談した相手

表25 胎児に対する気持ち

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
何とも思わなかった	0	0	0	3	11	14	19	47	2.9%
かわいそう	1	2	8	19	39	56	84	209	12.9%
悪いことをした	1	4	9	43	76	129	193	455	28.2%
憎い	0	0	0	0	0	1	3	4	0.2%
かわいい	0	2	9	38	91	214	386	740	45.8%
小計	2	8	26	103	217	414	685	1,455	90.1%
回答なし	0	0	1	9	25	38	87	160	9.9%
計	2	8	27	112	242	452	772	1,615	100.0%

表26 妊娠について最初に相談した相手

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
だれにも相談していない	0	1	2	3	6	2	12	26	1.6%
相手の人	0	2	14	57	147	302	492	1,014	62.8%
友達	0	2	5	24	43	70	120	264	16.3%
女姉妹	0	0	2	3	10	18	20	53	3.3%
男兄弟	0	0	0	2	0	1	2	5	0.3%
学校の先生	0	1	0	1	1	1	0	4	0.2%
医師	0	0	0	1	1	2	1	5	0.3%
父親	0	0	0	0	0	0	3	3	0.2%
母親	1	1	3	11	10	25	50	101	6.3%
その他	0	0	0	3	1	1	5	10	0.6%
小計	1	7	26	105	219	422	705	1,485	92.0%
回答なし	1	1	1	7	23	30	67	130	8.0%
計	2	8	27	112	242	452	772	1,615	100.0%

は前回の調査と同様相手の人が最も多く62.8%，次いで友達の16.3%であった(表26)。

26. 過去の妊娠

今回の妊娠以前に妊娠したことがあるかとの問いに対し、「ある」ものが22.4%、「ない」ものが70.5%、「回答なし」が7.2%と過去の調査と同様の傾向を示した(表27)。

27. 過去の妊娠回数

過去に妊娠したことのあるものに対し今回の妊娠のほかに何回妊娠したことがあるか調査したのが表28である。ほとんどのものが1回のみであり、77.3%を占めた。2回のもの18.0%、3回のもの4.2%、4回のものも2例認められ過去の調査と同様の傾向を示した。

28. 初診時の妊娠週数

表29に初診時の妊娠週数を示した。7週までに43.7%、8～11週までに22.7%と11週以前に66.4%の人が受診している。12～23週までに受診している人は17.6%であり、年齢別に検討すると、12～23週の初診者の絶対数は妊娠数が増加に伴い増加するのに従い増加する。しかし、各年齢における妊娠例での12週以降の初診の割合を検討すると、13歳の妊娠の50%、14歳37.5%、15歳37.0%、16歳33.9%、17歳26.9%、18歳29.0%、19歳21.2%と若年者ほど初診の時期が遅れることを示している。

29. 妊娠の結末

妊娠の結末を表30に示した。全妊娠1,615例のうち自然流産19例(1.2%)、人工妊娠中絶582例(36.0%)、経

表27 過去の妊娠

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
ある	0	0	2	11	39	112	197	361	22.4%
ない	2	8	25	95	184	313	511	1,138	70.5%
小計	2	8	27	106	223	425	708	1,499	92.8%
回答なし	0	0	0	6	19	27	64	116	7.2%
計	2	8	27	112	242	452	772	1,615	100.0%

表28 過去の妊娠回数

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
1回	0	0	2	9	35	86	147	279	77.3%
2回	0	0	0	2	4	21	38	65	18.0%
3回	0	0	0	0	0	5	10	15	4.2%
4回	0	0	0	0	0	0	2	2	0.6%
計	0	0	2	11	39	112	197	361	100.0%

表29 初診時の妊娠週数

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
0～3週	0	0	0	0	0	1	0	1	0.1%
4～7週	0	3	8	39	91	178	385	704	43.6%
8～11週	0	0	9	28	60	102	168	367	22.7%
12～15週	0	0	3	7	23	44	54	131	8.1%
16～19週	1	3	4	8	14	30	32	92	5.7%
20～23週	0	0	3	8	5	16	30	62	3.8%
24～27週	0	0	0	2	4	16	13	35	2.2%
28～31週	1	0	0	3	6	7	11	28	1.7%
32～35週	0	1	0	2	9	8	11	31	1.9%
36～39週	0	0	0	6	3	6	9	24	1.5%
40～43週	0	0	0	2	1	4	4	11	0.7%
回答なし	0	1	0	7	26	40	55	129	8.0%
計	2	8	27	112	242	452	772	1,615	100.0%

表30 妊娠の結末

	13	14	15	16	17	18	19	計	(%)
自然流産	0	0	1	1	2	11	4	19	1.2%
人工中絶	1	6	16	57	99	160	243	582	36.0%
経膣分娩	1	1	6	37	85	181	347	658	40.7%
帝王切開	0	0	0	3	7	12	34	56	3.5%
小計	2	7	23	98	193	364	628	1,315	81.4%
不明	0	1	4	14	49	88	144	300	18.6%
計	2	8	27	112	242	452	772	1,615	100.0%

腔分娩658例(40.7%)、帝王切開56例(3.5%)、不明および回答なし300例(18.6%)であった。前回調査に比し分娩例が増加し(23.1%→44.2%)、中絶例が減少している(54.1%→36.0%)。これは今回既婚者の占める割合が増加したためと思われる。

考 案

日本産科婦人科学会では昭和53年以来十代妊娠の実態調査を5年ごと過去3回にわたって行ってきた。第1回調査は昭和53年6月から1年間にわたり委員長：松本清一・妊娠問題小委員長：石浜淳美のもと行われ日産婦誌32巻10号に報告されている。第2回調査、第3回調査はそれぞれ委員長：中山徹也・妊娠問題小委員長：佐藤恒治および委員長：玉田太朗・妊娠問題小委員長：佐藤恒治のもとに行われ各々日産婦誌37巻9号、日産婦誌42巻4号に詳細に報告されている。最初の調査から15年を経過した現在社会環境の変化に伴い十代の妊娠の実態および同時期の性行動、性意識の変化の有無を検討するため、今回第4回目の調査を行った。以下の調査項目は過去の調査とほぼ同様の結果を示した。①年齢分布、②身体発育(身長)、③初経年齢分布と月経周期、④本人の教育背景、⑤居住地区、⑥家庭環境、⑦相手の教育程度、⑧初交の季節、⑨同棲の有無、⑩性感の有無、⑪性交を行った動機と婚前交渉に対する意識、⑫避妊の方法、⑬性教育を受けた場所、⑭月経が停止した時の気持ち、⑮過去の妊娠、⑯過去の妊娠回数、⑰初診時の妊娠週数、以上の17点は過去の調査とほぼ同様の傾向を示し今後も著変ないものと思われる。しかし今回の調査で過去3回の調査と大きく異なり既婚者の占める割合が増加したこと、および社会環境の変化により以下の調査項目は過去3回の調査とは異なる結果を得た。①本人の職業、②相手との関係、③性教育に対する関心、④妊娠といわれた時の気持ち、⑤両親は妊娠を知っているか、⑥胎児に対する気持ち、⑦妊娠について最初に相談した相手、⑧妊娠の結末、⑨初交の年齢および場所、⑩身体発育(体重)、⑪交際してから初交に至るまでの期間、⑫妊娠に至るまでの性交回数、⑬性交経験について、⑭避妊について、⑮性教育の有無、の15の点は過去の調査結果と異なる結果を示した。このうち①～⑧は既婚者の占める割合が増加したことに起因し、⑨～⑮は社会環境の変化に起因していると考えられる。以上のように今回の調査で過去3回の調査と大きく異なるのは既婚者の占める割合が増加していることである。このため過去3回の調査とはかなり異なる結果を得た項目が

表31 十代妊娠の年次別出生数および出生率

年次	出生数	出生率 女子人口千対
1970	20,165	4.5
1975	15,990	4.1
1980	14,576	3.6
1985	17,854	4.1
1990	17,478	3.6
1992	18,372	3.9
1993	17,439	3.9
1994	17,073	4.0

認められた。

そこでまず、「十代の婚姻の率が増加しているのだろうか」この点から検証してみたいと思われる。十代妊娠の実態すなわち十代妊娠が実際どのくらいあり、そのうち何例に人工妊娠中絶が行われているかは過去および現在においても不明であり、各種統計より推察せざるを得ない。厚生省より毎年報告されている優生保護統計によると1984年まで増加しその後横這い状態である。また表31に示したごとく厚生省の人口動態統計によると調査年度の1995年度分はまだ発表されていないものの過去1985年以降十代の分娩は17,000～18,000程度を推移しており調査年度の1995年のみ急増したとは考え難い。したがって今回既婚者、未婚者の分布が異なったのは、調査施設を取り巻く環境の変化に起因しているのではと考えられる。すなわち過去3回の調査ともほぼ同様の施設に調査を依頼しており、これらの施設は現在も分娩数の比較的多い施設である。過去数年間全国的に分娩を取り扱う施設の割合は減少してきており、婦人科のみ対象とした医療施設の割合が増加してきていることは周知の事実である。したがって、分娩例がこれら調査施設にシフトし逆に人工妊娠中絶例は他施設へ移行している可能性が考えられる。その結果今回の調査では施設は過去と同様であるにもかかわらず既婚者の割合が未婚者に比し増加したのではと考えられるがその詳細についてはさらなる検討を要すると思われる。いずれにせよ今回既婚者の占める割合が増加し、その結果としていくつかの調査項目は従来との報告とかなり異なった結果を得ている。したがって今までの調査の根底にあった十代妊娠は望まれない妊娠が多いという観念にとらわれず、今回は未婚、既婚、出産に至った経緯(妊娠→結婚か、結婚→妊娠か、未婚

のまま出産か)等を考慮し解析する必要が示された。しかし、クロス集計にはまだ時間を要することおよび過去の解析結果との比較という意味から今回は第1報として従来の集計方法と主として興味深かったいくつかの点についてのクロス集計を追加してみた。今後さらに婚姻の状態によるクロス集計および従来の調査では解析されていない分娩時における産科的問題点等について検討を加え順次報告して行きたいと思う。

以下、従来の集計方法に準じた解析結果の概要を述べてみたい。

まず、従来の各報告でほぼ同様の傾向を示した点を要約してみると、次のようである。年齢分布では18～19歳が約75%、17歳が15%、16歳以下が約10%である。身体発育では身長が155～159cmが最も多い。初経年齢は12歳を中心に11歳から13歳に分布し、月経周期は順なるものが75～80%である。本人の教育的背景は現代では約90%の高校進学率を示すにもかかわらず、中学卒が30%以上を占め、大学生は5%前後である。居住地区は都市部に集中し、特に人口20万人以上の都市が多い。家庭環境では片親のものが10～15%であるが約半数以上は両親と同居している。同居家族なしと答えたものは従来同様約30%を占めたが、今回婚姻の有無でクロス集計をしてみたところ、30%のうち20%は婚姻のため夫婦で暮らしており、未婚の独り暮らしは10%であった。相手の教育程度は高校卒が最も多く、大学卒、大学生は少ない。初交の季節では開放感にあふれた夏ことに8月が最も多く、次いで冬、春、秋の順である。同棲経験のあるものは30%程度であり、60%は経験がなく数値的には過去と同様の傾向を示した。対象が十代であることを考えると30%の同棲率は多いと思われる。また婚姻の状態により当然異なることが考えられるので既婚、未婚に分け検討してみた。未婚者の同棲経験のある率は24.7%であったが、既婚者では42.7%であり同棲→結婚のパターンが多いことがわかる。性感の有無では快感を感じるものは30%前後、50%程度はわからないと答え、快感を感じないものが10%存在する。性交を行った動機では「何とはなしに」、「わからない」、「求められるままに」等漠然とした気持ちで性交に至っているものが60%程度を占める。また各調査で「好奇心から」と答えたものが17～18%存在することは興味深い。婚前交渉に対する意識では「愛していればよい」、「結婚が前提ならよい」、「愛していなくても同意があればよい」の肯定的意見が約80%を占め過去の調査と同様の結果を示したが、「どんな場合でもよく

ない」は第1回調査(9.4%)第2回調査(1.8%)第3回調査(2.2%)と減少傾向を示していたが、今回さらに減少し0.4%を示している。避妊の方法は約80%がコンドームであり、一般人と同様である。性教育を受けた場所は約90%が学校であり、過去3回の調査と同様である。月経が停止した時の気持ちは過去3回の調査と同様であり、55%前後が妊娠したと思っている反面、35～40%の人はそのうちあると思っている。過去の妊娠では妊娠経験のあるものは20～25%であり、また過去の妊娠回数は1回のみのもが多く75%程度である。初診時の妊娠週数は11週までに60～65%の人が受診してくれるが、一方24週以降に初診するものも各調査で5～7%を占め、だれに相談することもできず、受診の時期が遅れることを示している。この傾向は若年者ほど著明である。

以上が過去の調査を通じてほぼ同様の傾向を示したが、以下の各項目は過去と異なった傾向を示した。そこでまず、既婚者が占める割合が増加したことにより調査結果が異なったものと思われる点から検討してみたいと思う。本人の職業は今回の調査では無職の占める割合が、45.4%と増加している、これは既婚者の占める割合が増加し専業主婦が増加したためではないかと思われる。相手との関係では従来友達が最も多く次いで夫の順であったが今回既婚者の増加した関係から夫の占める割合が36.2%と1位を示した。性教育に対する関心では「受けたかった」第1回53.8%→第2回46.9%→第3回32.8%→今回39.6%と全体的に減少傾向を示している。逆に「どうでもよい」、「必要ない」の否定的意見は32.8%→48.2%→61.2%→59.0%と増加傾向を示している。しかし未婚者と既婚者では当然関心が異なるはずである。そこで既婚者と未婚者に分け検討してみると既婚者では「受けたかった」24.9%、「どうでもよい」60.9%、未婚者では「受けたかった」44.5%、「どうでもよい」が36.1%と未婚者のほうが既婚者に比し望まれない妊娠を避けたいという気持ちから性教育に対する関心が高いと思われる。妊娠といわれた時の気持ちは「ショック」と感じた者は第1回調査60.4%第2回調査58.6%第3回調査51.9%と毎回減少を続けていたが今回さらに減少し35.3%であった。逆に「うれしかった」は27.0%→31.1%→36.2%→49.1%と毎回増加を示している。第2回調査と第3回調査の婚姻率は変化しないことよりその原因は不明であるが、今回「ショックだった」が著明に減少し「うれしかった」が急増したのは既婚者の割合が増加したことに起因す

ると考えられる。そこで既婚者、未婚者に分け検討すると当然のことながら既婚者では「ショックだった」というものは11.3%に過ぎず、「うれしかった」ものが74.5%を占める。逆に未婚者では、「ショックだった」が54.5%、「うれしかった」が32.2%を示した。以上のように今回妊娠といわれた時の気持ちが過去の調査と異なったのは既婚者の占める割合が増加したためと思われる。両親は妊娠を知っているか、胎児に対する気持ちも先に述べたごとく同様の理由で過去の調査結果と異なったものと考えられる。妊娠について最初に相談した相手は第1回調査では友達が第1位であり、第2回調査以降相手の人が1位であり友達は2位である。今回は既婚者の占める割合が高いことより当然といえよう。妊娠の結末は過去3回の調査では55%以上が人工妊娠中絶、経膈分娩が20%弱、帝王切開が1%前後、自然流産が2%前後であったが、今回人工妊娠中絶36.0%、経膈分娩40.7%、帝王切開3.5%、自然流産1.2%と人工妊娠中絶例が減少し、分娩例が増加しているがこれも今回既婚の例が増加していることによると思われる。以上既婚者の割合が増加したことに起因すると考えられる過去の調査との相違点を上げてみた。

次いで、社会環境の変化等により過去の調査を通じて変化してきた点について検討してみたい。初交の年齢は第1回調査では17~18歳にピークのあったものが第2回調査では16~17歳へと早期化し、第2回調査以降15歳以下で初交を迎えた割合は24.2%→30.1%→37.9%と調査ごとに増加しており、早期化の傾向を示した。初交の場所は第1回調査では野外、車の中が数%認められたが第2回調査以降減少し変わって、相手の家、ホテル、自宅が増加している。今回および前回の2回の調査における体重はそれ以前の調査より若干ではあるが増加している。交際してから初交に至るまでの期間は3カ月以内が第1回調査以来51.8%→58.4%→62.1%→67.4%、1カ月以内が、27.4%→34.2%→36.3%→41.1%と回を重ねるごとに早期化の傾向を示した。妊娠に至るまでの性交回数は最も多かったのは10回以上であり、前回よりさらに増加し73.5%を示した。逆に5回以内の性交で妊娠したものは第2回調査以降21.3%→16.1%→9.1%とまた1回のみで妊娠したのも第2回調査3.9%→2.1%→1.2%と毎回減少傾向を示している。この原因として種々の原因が考えられるが、後に述べるごとく、避妊率の増加および既婚者の増加による性交回数が増加等が考えられる。性

交経験については「現在の人のみ」は第2回調査44.4%→第3回調査41.4%→今回28.2%と減少している。複数名のもは調査のつど増加する傾向にあり、十代の性は欧米化してきていることを示している。避妊については少なくとも1回避妊を行っていたものは第1回調査以来63.0%→77.9%→81.0%→83.3%と増加している。特に未婚者では87.1%と高値を示し、望まれない妊娠を避けようという意識を窺わせる。しかし、毎回避妊を行っているものはこのうち16.2%に過ぎず、この点適切な性教育が望まれる。性教育を受けた経験については第1回調査以降54.9%→59.1%→61.0%→67.6%と増加傾向を示している。

以上今回の調査結果を前回までと比較して報告した。今回の調査から二つの問題点が浮かび上がってきた。第1は調査施設の設定に関してである。先に述べたごとく今回の調査では既婚の占める割合が増加してきている。しかしこれは絶対数の増加に基づくものではなく、分娩施設が減少した結果調査施設へ分娩例が集中し、分娩例の相対的な増加および既婚例の増加を来した可能性が示唆される。したがって十代妊娠の動態を検討するには統計学上好ましくなく調査施設の設定に一考を要すると思われる。しかし、未婚既婚に分け集計すれば、若年妊娠の背景、同時期の性意識等を検討するには極めて有用である。

第2に既婚者においては妊娠は歓迎すべき場合が多く、この点従来の十代妊娠＝望まれない妊娠という固定概念から作成された感のある現在のアンケート調査の内容を過去の調査と整合性をもたせつつ再考する必要があると思われる。しかし今回の調査結果でも既婚未婚に分け検討した結果、思春期妊娠すなわち望まれない妊娠という概念を脱却した一面をみることができ極めて有用な調査であった。しかし今回の報告は第1報として過去の報告との比較の関係上、主に従来の解析方法を用いた検討であり、この点十分とはいえない。したがって今後婚姻の状態によるクロス集計および既婚者の率の増加したことにより分娩例もかなり増加していることより、分娩の実態、産科学的異常等についてさらなる検討を要する。

むすび

日本産科婦人科学会思春期をめぐる諸問題検討小委員会では昭和53年以来日産婦、日母会員の協力を得て、過去3回にわたり、全国から20歳未満の妊娠を集め、思春期妊娠の実態、その背景因子等を検討してきた。今回同様の調査を行ったが、産婦人科を取り巻く社会

環境の変化等により、解析対象の分布が従来と異なっていることが判明し今後の検討課題として浮かび上がった。しかし、婚姻の状態により分類し検討することにより、従来からの性行動、性意識の把握に加え、思春期妊娠すなわち望まれない妊娠であるという固定概念から脱した新しい側面を見出すことができ極めて有効な調査であったと思われる。

なお次の方々(敬称略・順不同)から協力をいただいたことを記して、深甚な謝意を表す。

(北海道)高後 亮, 相馬 彰, 川瀬哲彦(青森県)菊池岩雄, 西村幸也, 長澤一麿, 野呂秀逸(岩手県)藤原 純, 瀬田道宏, 村井軍一, 大内義也, 工藤直彦, 伊東邦郎(宮城県)長池文康, 東岩井 久, 今泉英明, 遠藤 紘, 中川公夫(秋田県)大倉俊弥, 加藤充弘, 藤盛亮寿, 佐藤寅男, 関口一彦, 神部憲一(山形県)松尾正城, 国井勝昭, 三井盾夫(福島県)幡研一, 山内隆治, 桜井 博, 森田恒之(茨城県)椎名美博, 石渡 勇, 瀬尾文洋, 杉本充弘, 福地秀行(栃木県)上地弘二, 金沢 力, 糸井久雄, 飯田俊彦, 山口 順, 小沼誠一, 白石悟(群馬県)佐藤 仁, 神岡順次, 家坂利清, 家坂清子, 野上保治, 山口禎章, 桜井 洋, 久保 洋(埼玉県)北井啓勝, 安藤昭彦, 藤田寿太郎, 上里忠司, 木下勝之, 畑 俊夫, 村上行信, 福島悦雄(千葉県)武田祥子, 山口 静, 永井亜希子(東京都)高山忠夫, 黒島淳子, 兼子和彦, 佐々木静子, 岩倉弘毅, 中村理英子, 中村幸夫, 前部正隆, 長坂恒樹, 滝 直彦, 加来隆一(神奈川県)菊池三郎, 鈴木 真, 片桐信之, 浅井美紀子, 出口奎示, 前田宣紘(山梨県)佐々木紀充, 浅川龍一, 梶山 浩, 森澤孝行(長野県)丸山庸雄, 鈴木章彦, 三浦秀輔,

金井 誠, 平出公仁, 山崎輝行(静岡県)三須一衛, 島田方義, 黒牧武夫, 石川孝二(新潟県)永松幹一郎, 加藤政美, 丸橋敏宏, 徳永昭輝, 樋口 朗(富山県)大志摩敦朗, 中川俊彦, 林義則, 家城匡純, 津田達雄(石川県)宮下 敏, 炭谷治郎, 荒木良平, 山下 登, 上島半治(福井県)小林政二, 加藤初夫, 土田 寿(岐阜県)山田新尚, 伊藤邦彦, 玉舎輝彦, 山岸敏浩, 山口久夫(愛知県)鈴置洋三, 三輪一博, 小池皓弐, 友田 豊, 八神喜昭, 梶浦静二(三重県)中山尚夫, 宮崎信郎, 南 仁人, 西村公宏, 松本隆史(滋賀県)広瀬敏行, 山田兵衛(京都府)森治彦, 中田好則, 古谷幸子(大阪府)井上欣也, 椋棒正昌, 日高敦夫, 松本雅彦, 今井史郎(兵庫県)高橋秀介, 水谷不二夫, 中田 恵(奈良県)辻 祥雅(和歌山県)森下義夫, 横田栄夫, 瀧田博士, 榎本恒雄, 栃木泰之(鳥取県)梅澤潤一, 筏津哲夫, 中山俊彦(岡山県)堀 章一郎, 本郷基弘, 佐藤 靖, 秋本暁久, 澤井倫子, 福井秀樹, 赤堀和一郎(広島県)松田修典, 藤井恒夫, 真野淳夫(山口県)森 透, 梅田 馨, 小田法枝, 国重恒之, 辰村正人, 石松正也(徳島県)三谷 弘, 春名 充, 奈賀 脩, 藤田泰彦(香川県)川田清弥, 綿谷博志, 猪原照夫(愛媛県)今泉幸夫, 長野 護(高知県)田村武美, 長谷川俊水(福岡県)天ヶ瀬慶彦, 田中康一, 牛島陽一(長崎県)三浦清巒, 河野前宣, 吉田至誠, 小尾重厚, 村上俊雄(熊本県)竹本純一, 牛島 薫, 牛島英隆, 清田祐史, 瀬戸致行(大分県)堀永孚朗, 松岡幸一郎, 今村安吉, 角沖久夫, 山田滋彦(宮崎県)加藤民哉, 立山浩道, 下村雅伯, 前田正一郎, 塩川宏信, 土井 修, 春山康久, 池ノ上 克(鹿児島県)中村雅弘, 柿木成也, 土橋睦夫, 淵之上祥徳, 桑波田景一郎(沖縄県)糸数健, 永山 考, 當山雄紀, 高良光雄, 金城忠雄, 伊是名博之, 稲福恭雄